

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：34426

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01591

研究課題名（和文）社会統合の展開と可能性 外国人ケアワーカーのキャリアと移動の選択に注目して

研究課題名（英文）Social Integration and Career Mobility of Migrant Care Workers

研究代表者

篠原 千佳（Shinohara, Chika）

桃山学院大学・社会学部・准教授

研究者番号：00570178

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 5,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究「社会統合の展開と可能性 - 外国人ケアワーカーのキャリアと移動の選択に注目して -」では、今後更なる増加と滞在の長期化が予測される東南アジアからのケアワーカー（介護・看護・家事労働従事者）を日本社会の構成員として位置づけ、その送受入過程、就職に関わる諸アクター、定住と移動パターンそしてキャリア形成に関する諸事情を分析した。このような来日ケアワーカーの1) キャリアと家族の形成、そして2) 日本社会への定着と内外移動の可能性を、社会統合の展開と市民権という観点で、理論と実証の両方から検討を行った。その成果を国内外の研究会での研究報告と論文出版の形で発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

東南アジアから来日するケアワーカーが増加し、今後もその増加が見込まれる中で、彼らの日本社会における生活やキャリア形成そして家族定住に対する理解は不足している。研究成果としては、そのような「日本社会が求める人材である来日ケアワーカー」について、送り出しと受け入れ過程の理解、来日後の生活状況と問題の把握、その後のキャリア形成や家族定住についての情報収集と分析、そしてその研究発表・出版を国内外で行った。学術的そして社会的意義としては、これまでに分析されてこなかった東南アジアからの来日ケアワーカーの労働と生活、つまり、日本社会への定着と問題点という社会統合と市民権に関する研究ができたことである。

研究成果の概要（英文）： This project, "Social Integration and Career Mobility of Migrant Care Workers," examined the sending-receiving processes of migrant care workers, the actors involved in their job placements, and their mobility and career development patterns, by locating such Southeast Asian workers as active members of Japanese society. Both theoretically and empirically, this project considered these migrant care workers' 1) career developments and family formations as well as 2) possibilities of settlement into Japanese society and within-the-country mobility with the perspectives of social integration and citizenship. The results were presented at research meetings/conferences and as research article publications in Japan and abroad.

研究分野：社会学

キーワード：社会統合 市民権 キャリア ケアワーカー 移動 グローバル化

1. 研究開始当初の背景

「外国人ケアワーカーの受入をめぐり、今後の日本にはどのような社会統合の可能性があるのか」を学術的問いとして、本研究は渡日ケアワーカーのキャリア形成意識と定住・移動の傾向そして関係諸アクターの送出入過程からその後にいる認識をもとに、柔軟で新しい社会統合の形を検討する計画を申請した。これまでの外国人ケアワーカー研究は、彼らを労働力不足補てんの為の人材として短期的にとらえた職種・出身国・受け入れ制度の枠組みを限定した調査(e.g. 平野 2018)や各国の法制度と受け入れ政策にかかわる議論や人材教育論(e.g. 安里 2018)にとどまっていた。つまり先行研究分析の範囲は、外国人労働者政策の是非とケアの現場の変化にすぎなかった。しかし今後も来日の継続と増加、さらには定住外国人のケア労働参入の活発化の可能性に鑑みると、従来の議論の繰り返しだけでは全く不十分であった。

この学術的そして現実的な必要性に基づき、本研究は、長期滞在化と増加が今後も見込まれるなかで、日本社会の構成員としての外国人ケアワーカー受け入れそして移動と定住に関わる課題を、社会統合と市民権という観点から明らかにすることを目指した研究であった。その際に、ケアワーカーの地域社会におけるキャリアとライフコースにも注目した労働生活と認識の形成過程を分析した。これらの蓄積から、質の高い外国人ケア人材の育成と定着性だけでなく、ケアワーカー個人のキャリアの構築と家族形成・就労生活にかかわる課題、つまり社会統合の展開と市民権拡大の可能性を考察する必要性を認識した。

2. 研究の目的

本研究の学術的な特色は、外国人ケアワーカーについての今後の推移を見すえて、日本社会の構成員という視点、すなわち社会統合の観点から考察し、彼/彼女らの生活の質の向上と今後起こりうる移動に関する課題を明確化し分析しようとする点にあった。従来の研究は、外国人労働者を短期的な労働力補充のための人材確保の観点からのみとらえるため、政策面での是非やケア労働現場における受容に関わる課題などを断片的に明らかにしてきたに過ぎなかった。また、離職、転職、帰国など個人の就業後の移動を問題としてのみとらえ、それらや再来日という労働者の動向について、受入側や送出機関そしてケアワーカー側のキャリアと家族の形成という複合的要因を十分に理解できていなかった。それに対し本研究は渡日ケアワーカーの中長期的な受容と国内外移動を考える基礎となるものとなった。

さらに本研究は、外国人ケアワーカーの社会統合を、地域の特色(外国人集住・非集住地域)と国内外移動に注目し比較して考察するという点で独創的である。従来の外国人労働者に関する研究の多くは外国人の多い集住地区で行われ得られた知見に基づいて社会統合上の課題が論じられてきた。しかし来日経緯や居住の継続性とその長期化は、当該地域において外国人が地域住民としていかに承認・受容されているか、外国人がアクセス可能な社会的資源がその地域にどれほど集積しているか、どのような移動がすでに行われているのか、によって変化する。この現状に鑑みて本研究は、地域の特性に目を配り外国人と地域の関係を分析に組み込むという点で、従来議論のなかった喫緊性を持つ課題を提起した。

それまでは、外国人ケアワーカーは短期的な労働者としてのみ位置づけられるか、もしくは国家資格取得後に、地方から都市部へ移動していくという結果を生み出してきた。これは外国人当事者にとってもキャリア形成過程を頓挫させかねない問題であった。こうした課題に対して本研究は、日本における社会生活とその認識形成に注目した。その際に、地域の外国人受容を一つの鍵とすることで、外国人を単なる一時的労働力として見なすのではなく、日本社会の一員として共に生活していくための新しい視座を提示することを目的とした。それゆえに本研究は、長期的な社会の構成員として外国人ケアワーカーをとらえ、日本の社会統合の在り方と、彼らの労働と生活の質向上に関する知見の構築を可能としたものである。

3. 研究の方法

本研究は、4年にわたり、次の3ステップで実施した。第一に、外国人集住地区と非集住地区において対象地域における外国人ケアワーカーとその生活環境を、職場・生活環境・地域の3点から多層的に把握調査を実施した。第二に、外国人ケアワーカーたちの来日プロセスおよびケア労働就職プロセスにおいて、送出側と受入側である日本社会で、ケア労働と生活とがどのように形成されそして認識されてきたのかを把握した。各国の送出プロセスと研修の内容を現地調査によって明らかにした。

他方、定住外国人ケアワーカーの就職過程を解明するために、定住外国人向けのコースを設けている介護福祉系専門学校と、外国人を雇用する家事代行企業を対象として、聞き取り調査と参与観察を実施した。第三に、上記調査から得られた知見を考察することによって、単なる短期的ケア労働人材としてではなく、日本社会の構成員としての社会生活形成過程を調査分析した。そのことによって、外国人ケアワーカーとの共生と社会統合への課題を明らかにした。

4. 研究成果

本研究では、今後更なる増加と滞在の長期化が予測される東南アジアからのケアワーカーである介護・看護・家事労働従事者を日本社会の構成員として位置づけ、その送出受入過程、就職に関わる諸アクター、定住と移動パターンそしてキャリア形成に関する諸事情を分析した。このような来日ケアワーカーの1)キャリアと家族の形成、そして2)日本社会への定着と内外移動の可能性を、社会統合の展開と市民権という観点で、理論と実証の両方から検討を行った。その成果を国内外の研究会での研究報告と論文出版の形で発表した。また、地域社会への貢献として大学公開講座においても、一般市民を対象に情報提供を行った。

得られた成果の国内外における位置づけとしては、まず、日本国内において来日ケアワーカーの多種多様な来日と定住過程の理解ができたことは大変重要であろう。来日の背景にある東南アジアの社会経済的背景の理解に加えて、来日後の日本社会側の問題点の総合的な把握ができたことは、貴重な研究成果といえる。

つぎに、海外においても、ケア労働者を送り出す東南アジアの国々やその関係者にとっても、渡日後の状況や同行の把握ができる事は、キャリア形成や家族定住の状況も含めて、貴重な研究情報として受け止められるであろう。研究の前半は、まだコロナ禍の影響もありオンラインではあったが、タイのチュラーロンコーン大学社会問題研究所サヤモン・チャロエンラタナ博士らとの研究会や情報交換も必要に応じて行った。そして後半には、インドネシアのバリ島でガネーシヤ教育大学日本語教育担当二・ヌンガー・スアルティニ博士らと現地調査を行うことができた。また、欧米だけでなく東南アジアやオセアニアでも研究発表を行ったことにより、グローバルな研究成果の共有ができたことは、大きな成果であり多様な視点による評価を得ることができた。

今後の展望としては、さらに少子高齢化と人口減少により、来日ケアワーカーが求められる現状において、ケアワーカー数の増加だけでなく、送り出し国数の増加も見込まれる。日本社会はケアワーカーの定住や家族帯同来日による労働者増加をはかるために、無理のない形での社会統合と市民権の確立に向かって動き出す必要がある。日本人も来日者も、就業し家族生活を行いやすい社会への転換が求められる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Chika Shinohara	4. 巻 4
2. 論文標題 Migration Policy and Social Integration of Southeast Asian Workers	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Social Justice and Inequality Journal	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Chika Shinohara
2. 発表標題 Migration Policy and Social Integration of Southeast Asian Workers
3. 学会等名 European Association for Southeast Asian Studies Annual Conference (EuroSEAS Paris 2022) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kumiko Tsuchida & Sanae Sugawara
2. 発表標題 Working as a Care Worker: Narratives of Southeast Asian Migrants
3. 学会等名 European Association for Southeast Asian Studies Annual Conference (EuroSEAS Paris 2022) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 篠原千佳・土田久美子
2. 発表標題 バリから日本へ 送り出し機関と実習生
3. 学会等名 来日ケアワーカーのキャリア形成と社会生活そして将来
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長谷部美佳
2. 発表標題 チェンマイから日本へ 介護特定技能者の育成
3. 学会等名 来日ケアワーカーのキャリア形成と社会生活そして将来
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Chika Shinohara
2. 発表標題 Growing Global Migrants and Care Worker Policy
3. 学会等名 Learning from Migrant Care Workers: A Sociological Research Meeting on Care Worker Migration in Globalization (Online with CUSRI 2022)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kumiko Tsuchida
2. 発表標題 Filipino Migrant Care Workers in Japan
3. 学会等名 Learning from Migrant Care Workers: A Sociological Research Meeting on Care Worker Migration in Globalization (Online with CUSRI 2022)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菅原 真枝
2. 発表標題 ケアワーカーの国際移動 - 東南アジアの若者は何処へ向かうのか -
3. 学会等名 外国人ケアワーカーの国際移動に関する研究会 (仙台 2023)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ニ・ヌンガー・スアルティニ
2. 発表標題 バリ島から広島へ - ケアワーカー送出・受入過程の事例をもとに -
3. 学会等名 外国人ケアワーカーの国際移動に関する研究会 (仙台 2023)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ウォロ・ムスティカ・ウェニ
2. 発表標題 インドネシア人ケアスタッフの認知症ケア実践について
3. 学会等名 外国人ケアワーカーの国際移動に関する研究会 (仙台 2023)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 デシ・スバルカ
2. 発表標題 ジャワ島から東北へ EPAに基づき来日したインドネシアからの外国人介護職員の事例
3. 学会等名 外国人ケアワーカーの国際移動に関する研究会 (仙台 2023)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ヌル・ナディア・シルビア・ニンシー
2. 発表標題 特定技能資格で来日介護就労 - 半年で日本語検定N3合格、来日3か月の事例
3. 学会等名 外国人ケアワーカーの国際移動に関する研究会 (仙台 2023)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 篠原 千佳
2. 発表標題 ケアワーカーの国際移動を制度と来日ケアワーカーのキャリア形成の視点から
3. 学会等名 外国人ケアワーカーの国際移動に関する研究会（仙台 2023）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 土田久美子
2. 発表標題 東南アジアからの来日定住者とケアワーク
3. 学会等名 外国人ケアワーカーの国際移動に関する研究会（仙台 2023）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長谷部 美佳
2. 発表標題 東南アジア諸国出身日本定住者の介護分野での就業増加についての考察
3. 学会等名 外国人ケアワーカーの国際移動に関する研究会（仙台 2023）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Chika Shinohara, Kumiko Tsuchida, Sanae Sugawara, Takako Kawai, and Ni Nengah Suartini
2. 発表標題 Certified Vs. Unskilled Migrant Care Workers: Work-Family Decisions and Rights
3. 学会等名 XX ISA World Congress of Sociology (ISA Melbourne 2023)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

地域社会貢献活動

1) 土田久美子「ケアの多文化化－外国人介護従事者たちの語りを中心に」駒澤大学公開講座、駒澤大学深沢キャンパス（2023年7月29日）

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	土田 久美子 (Tsuchida Kumiko) (20553035)	駒澤大学・文学部・准教授 (32617)	
研究分担者	長谷部 美佳 (Hasebe Mika) (30624118)	明治学院大学・教養教育センター・准教授 (32683)	
研究分担者	菅原 真枝 (Sugawara Sanae) (50359501)	東北学院大学・地域総合学部・教授 (31302)	
研究分担者	川井 太加子 (Kawai Takako) (70441102)	桃山学院大学・社会学部・教授 (34426)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	サヤモン チャロエンラタナ (Sayamol Charoenratana)		
研究協力者	ニ ヌンガー スアルティニ (Ni Nengah Suartini)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会	開催年
Learning from Migrant Care Workers: A Sociology Research Meeting on Care Worker Migration in Globalization	2022年～2022年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
インドネシア	ガネーシャ教育大学（バリ島）			
タイ	チュラーロンコーン大学社会問題研究所（バンコク）			